

# 来週の『売り物』記事はこれ



2015年5月15日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 作家生活 25 周年「劉邦」発売

宮城谷昌光 創作の原点をたどる

17(日)



中国物歴史小説に新しい地平を切り開いた人気作家、宮城谷昌光さんの新作で、本紙朝刊に好評連載された「劉邦」上巻が16日、毎日新聞出版から発売されました。宮城谷さんは今年、作家生活25周年を迎えました。デビュー作「天空の舟」がいきなり、第104回直木賞候補になるなど、文壇への登場は衝撃的でした。しかし、無名時代の家計は火の車。「金がないとは何なのかを考えた」と言います。師匠である作家の立原正秋に作品の講評を求めると、赤鉛筆で斜線を引かれ、「陳腐だ」と送り返されたこともあります。作家志望をあきらめ、筆を折る覚悟もしました。45歳で世に出るまでの苦闘と夫婦愛、そして作品にかける情熱を、24年の交流を持つ記者がたどります。

日曜朝は『S』で始まるー。ストーリーにご期待下さい。

## 中村桂子さんと対談

朝刊文化面 23日(土)



現代社会で見失われがちな理想について批評家の若松英輔さんが各界の識者で行う対談「理想のかたち」のゲストは、JT生命誌研究館長の中村桂子さん。文系の若松さんと理系の中村さんが、互いの枠を越えて語り合います。いかにして「いのち」の尊厳を取り戻すかをめぐり、身の回りの自然の大切さから自然科学の役割、あるべき先生像まで話題は広がります。

## 最大野党・民主党の覚悟を問う！

安保法案の国会審議で存在意義を示せるのか

夕刊2面特集ワイド 18日(月)

安全保障関連法案が閣議決定され、26日にも衆議院で審議入りします。「この国のかたち」を変えることになるかもしれない重要な法案で、歴史的な審議の行方が注目されます。ただ、与党の対抗軸となるべき最大野党・民主党の存在感は今一つです。支持率は低迷し、国民の期待が高いとはいえません。そんな民主党にとって今回の審議は、党存続へ向けた最後のチャンスになるかもしれません。民主党にその覚悟はあるのか、どう闘うべきなのか、党内外で取材しました。



## 幼老複合施設の現場

くらしナビ面 25日(日)



少子化や社会環境の変化で、子どもたちの人間関係は狭くなっています。そこで注目されるのが「幼老複合施設」。保育園や学童保育所などと養護老人ホームなどを合築・併設して異世代交流を促す試みです。日常的に触れ合うことで、子どもとお年寄りの双方に生まれる効果や、複合施設をテナント物件として提案する企業も出てきています。

## 「がん社会はどこへ」 第2部～働き続けたい

くらしナビ面 20日(水)から計6回



がんの治療をしながら働く人は30万人超とされます。しかし、職場の支援不足や無理解から、転職や離職を余儀なくされるケースは少なくありません。患者にとって仕事は経済的な支えだけでなく、生きていく上で精神的にも大切なものです。がんを抱えながら働く人の現状や、より良く生きるための方策を紹介します。

### 1人暮らしでも作りやすい、忙しい日の晩ご飯

くらしナビ面 19日(火)

時間がない日や、夜遅く帰った日の晩ご飯は、食卓に市販の総菜が並びがちですが、栄養の偏りやカロリー過多は気になる場所。そこで、1人暮らし、料理初心者でも作りやすく、おいしく仕上げられる献立を、料理研究家の行正り香さんに教えていただきます。手早くおいしい料理を作るためのコツも紹介しています。



### 「西原理恵子のおかん飯」

おん家のしんぶん 

18(月)



料理家の枝元なほみさんとの「大好きさんへ編」。今回の料理は「男子が喜ぶおかず」ということで、「くるくるキャベツ」です。炒めた牛肉などを、しんなりさせたキャベツで巻いたシンプルな料理ですが、「永遠に食べられる」(西原さん)ものに仕上がりました。さて、その理由は……。記事とイラスト、合わせて楽しんでください!

### トヨタ自動車副社長 加藤光久さんに[そこが聞きたい]

### 新エネルギーが描く「水素社会」の未来

20日(水) オピニオン面

「究極のエコエネルギー」と呼ばれる水素。環境に負担をかけない<エコロジーなエネルギー>であると同時に、尽きることのない<無限の資源>とも呼ばれています。エネルギー資源に乏しい日本にとってはまさに「夢の資源」ですが、実用化に向けては技術的な課題や、コストやインフラ面でまだまだ時間がかかると見られてきました。ところが昨年暮れに産業技術史上、画期的なイノベーションがカタチとなりました。トヨタ自動車が発表した世界で初となる量産型燃料電池自動車「MIRAI(ミライ)」です。開発の先頭に立った副社長の加藤光久さんは言います。「水素が社会を支えるエネルギーとなることで、より低炭素な社会が実現する」。すぐそこまでやって来た水素社会の「未来」に迫ります。



「知りたい」が分かる。

オピニオン面にご注目ください。